

基本目標① 子どもと親と地域が共に育つまちをつくります

方向性(1) 親同士のつながりと子育て力の育成

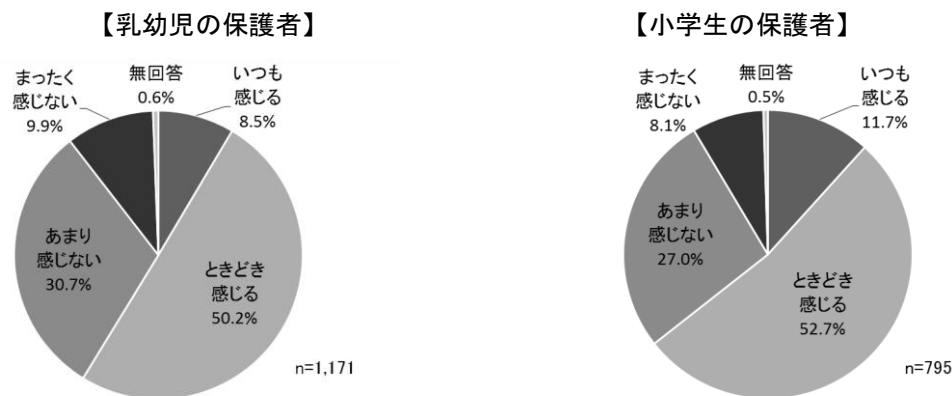
現状と課題

子どもが自分自身や他者に信頼感をもち、また、社会の中で生きていくために必要な生活習慣や判断力を身に付けていく上で、基本となるのは親の愛情や家庭での教育です。

核家族化や地域のつながりの希薄化、兄弟姉妹の数の減少等により、自分の子どもができるまで赤ちゃんに触れ合う経験が乏しいまま親になり、子育てに自信が持てず、不安や負担を抱えて、孤立してしまう状況も生じています。調査結果からも、子育てに自信が持てないと感じる方が増加していることが分かります。

親同士の交流を促進し、互いに支えあうしくみをつくることにより、親が親になる喜びを実感するとともに、親や家庭が本来持つ基本的な力を発揮できるようにしていく必要があります。

＜子育てに自信が持てないと感じる保護者の割合＞



資料：「墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査 調査結果報告書」（平成 31 年 3 月）

今後の方向性

- 先輩ママ・パパの体験をこれから親になる人に伝える取組や、子どもの年齢やテーマ（食事・遊び・運動等）による講座やイベントの開催をきっかけとして、保護者同士の自主的なグループの育成・活動支援等を通じて、保護者同士のつながりや支えあいを促進します。
- 子どもとともに親も成長していくことができるよう、親としての心構えや子育てについて学ぶことのできる機会の充実を図ります。妊娠中から子どもの成長過程に応じて、継続的に学ぶことのできるプログラムの展開をめざし、関係機関の連携・協働による講座や交流事業等を開催していきます。
- 子育てひろばは乳幼児期の子育て家庭を支える地域の拠点であり、両国・文花子育てひろば、児童館のほか、認定こども園に子育てひろば（地域子育て支援拠点）を整備するとともに地域で自主的に設置する「ひろば」への支援も検討します。
- 子育てひろばが親子にとって安心して過ごせる居場所となるよう、利用者の主体的な参加を支援し、いっしょに居場所づくりを進める環境をつくります。

方向性(2) 子育て家庭への支援サービスの充実

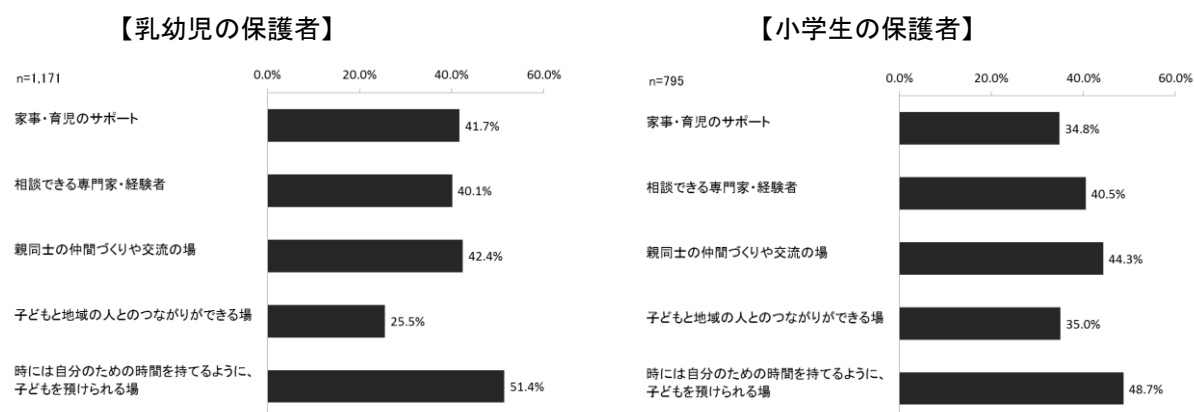
現状と課題

保育施設の整備が進み、数多くの方が認可保育所や幼稚園などの教育・保育事業を利用していますが、そうした事業を利用していない方ほど子育てに対して不安や孤独を感じる割合が高くなっています。

子どもの発育・発達には、身近な大人の応答的かつ積極的なかわりが重要です。親がその心の余裕を持てるように、区は、すべての子育て家庭が利用できる、育児不安を相談できる子育て安心ステーション事業や一時預り事業など、さまざまなサービスの充実を図ってきました。

また、調査結果によると、子育ての不安感や孤立感を和らげるために必要なこととして、「時には自分のための時間を持てるように、子どもを預けられる場」のニーズが高まっており、在宅で子育てをしている保護者への子育て支援も充実させていく必要があります。

<不安感や孤立感を和らげるために必要なこと（複数回答可）>



資料：「墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査 調査結果報告書」（平成 31 年 3 月）

今後の方向性

- 子育てを応援するサービスのメニュー・量を拡充し、利用しやすくすることにより、親の育児不安や負担を軽減・解消し、すべての子育て家庭が地域で安心して子育てをすることができるようにしていきます。
- 人材育成、場の確保により、一人ひとりの状況に応じた育児相談対応を実施し、子育て家庭の不安の解消に取り組んでいきます。
- 子育ての負担感を軽減し、子育てに喜びや生きがいを感じることができるよう、親のレスパイトの観点からも子育て支援環境を充実させていきます。

方向性(3) 子どもの豊かな育ちを育む場・機会の充実

現状と課題

保護者が就労している家庭の子ども等の放課後の生活の場となり、子どもの育ちを支援する学童クラブは在籍数が年々増加しており、全児童数に占める登録率は平成 31 年 4 月 1 日現在で 19.1%となっています。区では、平成 26 年度に国が策定した「放課後子ども総合プラン」を推進し、計画的に学童クラブの整備、放課後子ども教室の実施を進めてきました。整備によって学童クラブ待機児童数はやや減少しましたが、今後就学児童の増加に伴う需要量の増が見込まれます。さらに、夏休みなどの長期休み期間中の児童や、高学年児童の居場所も課題となっています。

また、国は、女性就業率の上昇に伴い、更なる共働き家庭等の児童数の増加を見込み、「小1の壁」・「学童クラブ待機児童」の解消をめざして、平成 30 年度に「新・放課後子ども総合プラン」を策定しました。児童福祉と教育の分野における連携をさらに強化し、地域全体で子どもたちが豊かに育つことのできる環境を整えていく必要があります。

すみだで生まれ育つ子どもたちが、次代を担う人材として成長するためには、健全な青少年育成も大切です。そのためには、中学生や高校生に対する育ちの場と機会を創出し、自立した大人へ成長できる支援も必要となります。

＜小学生の放課後の過ごし方＞

学校にいる(部活動やクラブ活動を含む)	8.3%
学童クラブに行く	27.2%
塾や習い事に行く	57.4%
児童館に行って遊ぶ	12.3%
図書館、コミュニティ会館など地域の施設に行く	6.4%
友達と遊ぶ	44.9%
ゲームセンター・ファストフード店等に行く	0.0%
地域のクラブ活動(スポーツ活動等)に参加する	3.6%
子ども会活動・ボランティア活動等に参加する	0.3%
家族と過ごす	36.2%
ひとりで過ごす	14.2%
その他	4.0%
無回答	1.9%

＜中学生の放課後の過ごし方＞

学校にいる(部活動やクラブ活動を含む)	71.9%
塾や習い事に行く	50.9%
友達と遊ぶ・でかける	37.4%
児童館に行く	0.4%
図書館、コミュニティ会館など地域の施設に行く	1.4%
地域のクラブ活動(スポーツ活動等)に参加する	2.1%
ボランティア活動などをする	0.7%
家族といる・出かける	19.9%
一人で家にいる・出かける	37.4%
アルバイト・仕事をする	0.0%
その他	2.1%
無回答	4.3%

資料：「墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査 調査結果報告書」(平成 31 年 3 月)

今後の方向性

- 地域の中で、乳幼児から中高生にいたるまでの子育て支援の拠点となる児童館の質を向上させるため、指定管理者である事業者と行政の協働を引き続き推進していきます。子どもたちに遊びの場、安全で安心な放課後の居場所を提供し、子どもたちが自主性や社会性、人間性を育めるよう児童館の内容の充実を図ります。
- 「新・放課後子ども総合プラン」を推進し、放課後子ども教室と学童クラブのさらなる連携強化に取り組みます。地域ごとのニーズに応じて、学校施設の活用や民間事業者との連携等により多様な受け皿の確保に努めていきます。
- 小中学生へのリーダー講習会や研修会により、さまざまな出会いの中で、人とかわかることで得られる喜びを体験できる機会などを拡充し、次代を担う健全な青少年育成に取組み、各少年団体の育成や活動の充実を図ります。また、地域の関係機関が連携・協働して、多様な自然体験・社会体験活動等ができる場・機会づくりを進めます。

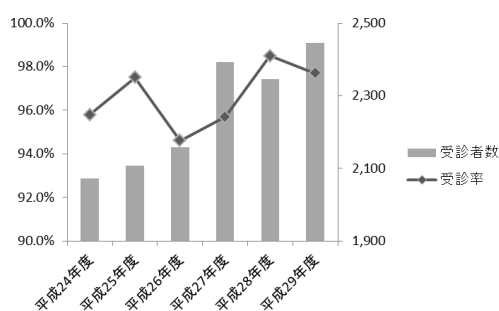
方向性(4) 子どもと親の心とからだの健康づくりの促進

現状と課題

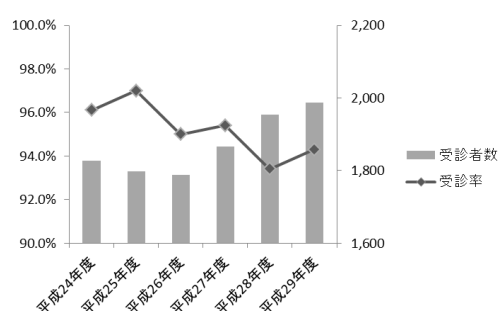
母子保健はすべての子どもが健やかに成長していくうえでの健康づくりの出発点であり、次世代を担う子どもたちを健やかに育てる基盤となります。妊娠・出産・子育てを通じて、さまざまな不安や悩みが生じるため、正しい情報を伝え、気軽に相談できる環境を整えるなど、育児不安の軽減・解消や虐待の未然防止・早期発見に重点を置いた取組が求められます。

また、朝食を摂らない等の食習慣の乱れや思春期からのダイエットにみられるような、心とからだの健康問題が依然として生じています。子どもが自分の体について正しく理解し、適切な生活習慣を身に付けられるよう取組んでいく必要があります。

＜3～4 か月児健診受診状況＞



＜3 歳児健診受診状況＞



資料：「墨田区の福祉・保健」

＜朝食の摂取状況＞

	平成28年度			平成29年度			平成30年度		
	毎日食べる	ときどき食べない	毎日食べない	毎日食べる	ときどき食べない	毎日食べない	毎日食べる	ときどき食べない	毎日食べない
小学校低学年	93.9%	5.8%	0.3%	93.9%	5.7%	0.4%	93.9%	5.7%	0.4%
小学校高学年	89.3%	9.8%	0.9%	89.6%	9.3%	1.1%	89.3%	9.5%	1.2%
中学生	82.0%	14.6%	3.5%	82.5%	14.2%	3.4%	81.2%	14.8%	4.0%

資料：「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査 報告書」

今後の方向性

- 乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）に継続して取組み、子育て家庭の状況を丁寧に把握して、疾病や障害等の早期発見・早期対応につなげるとともに、乳幼児期に親子が良好な関係を築くことができるように支援します。
- 健康診査などの機会を通じて、日ごろから気軽に相談できる、かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局の普及啓発を行います。
- 健康なからだと豊かなこころを育むうえで、乳幼児期は食習慣の基礎や規則正しい生活リズムをつくる大切な時期であり、家庭がその役割を十分に果たし、子どもが望ましい食習慣を身に付けられるよう、関係機関が連携・協力して食育に取り組んでいきます。
- 望まない妊娠や性感染症の防止のための性教育を推進します。また、家庭、学校、地域が一体となって、喫煙、飲酒、薬物乱用等に対する正しい知識の普及啓発に取組み、子どもが誘惑に負けることなく、適切に行動できる力を育みます。

基本目標② 保育の量的整備も継続しつつ、教育・保育の質を高めます

方向性(1) 乳幼児が健やかに育つ教育・保育環境の整備

現状と課題

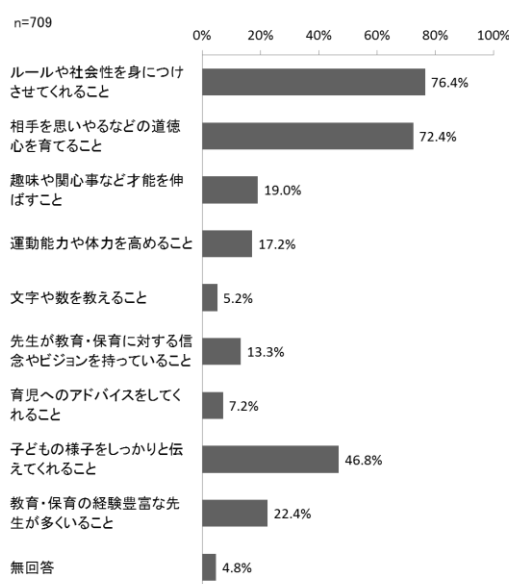
認可保育所の新設等により定員数は増加しているものの、人口の増加に伴い認可保育所の申込み者数は増え続けており、今後も人口の増加が見込まれることから、引き続き量的な充足を図っていく必要があります。一方で、東京都の人口は令和7年度をピークに減少局面に入ると予測されており、保育の受け皿整備の方法が課題になっています。

また、待機児童解消の取組みにより、全国的な保育士不足の問題や、多様な運営主体の参入による保育の質の低下が懸念されています。乳幼児期の教育・保育環境はその後の子どもの成長に大きな影響を与えることから、適切な質を確保するだけでなく、質をより高めていくことが求められています。

＜利用したい子育てサービス＞

幼稚園	19.6%
幼稚園(預かり保育を併用)	13.8%
認可保育所	54.9%
認定こども園	5.5%
小規模認可保育所	0.3%
家庭的保育事業(保育ママ)	0.2%
事業所内保育所	0.3%
認証保育所	1.2%
認可外保育所	0.4%
定期利用保育	0.2%
ベビーシッター	0.3%
その他	0.9%
無回答	2.6%

＜幼稚園、保育園等に求めること(複数回答)＞



資料：「墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査 調査結果報告書」(平成31年3月)

今後の方向性

- 増加が予想される保育ニーズに対しては、新たな施設整備ではなく、保育定員の見直しや保育園同士の連携、幼稚園の預かり保育の拡充、公立幼稚園の入園対象年齢の引き下げ等あらゆる方法を検討し、サービス量の拡充を図ります。
- 指導検査や巡回支援により質の確保を図るとともに、プロジェクトとして実施してきた「子ども主体の協同的な学び」を浸透・定着させ、公開保育等を通じて教育・保育の質の向上に取り組めます。
- 量の確保、質の確保の両面から、適切な人数の保育士が全ての保育施設に配置されることが重要であり、保育士確保に向けた支援に取り組んでいきます。
- 小学校入学後にスムーズに学校生活になじむことができるようにするため、保育所及び幼稚園、並びに小学校との連携・交流等を通じた取組を推進します。

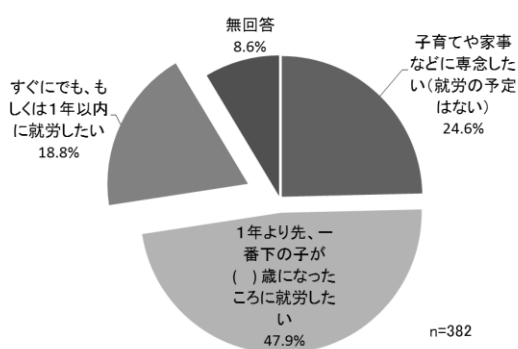
方向性(2) 多様なニーズに応える保育サービスの充実

現状と課題

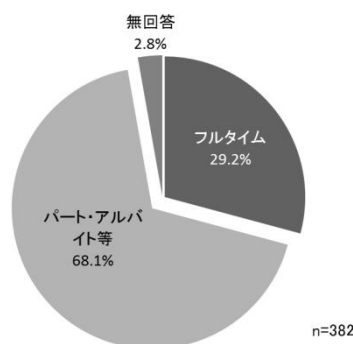
調査では、就労していない乳幼児の母親の 66.7%は就労の意思があり、そのうち、1年以内に就労したいと考えている乳幼児の母親の約7割がパート・アルバイトでの形態を希望しています。保育環境の整備には、こうした就労の形態やニーズに合わせた対応が求められます。

また、共働き世帯の割合が増加しており、それぞれの働く環境に合わせた多様なニーズにも対応し、サービスの充実を図っていく必要があります。一方で、働き方改革が推進され、労働環境が変化する中で、「子どもの最善の利益」を考えた保育のあり方が求められています。

＜就労していない母親の就労意向＞



＜1年以内に就労希望の人の就労形態＞



資料：「墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査 調査結果報告書」（平成31年3月）

今後の方向性

- 保護者の就労形態やニーズの多様化に対応し、定期利用保育や延長保育等の保育サービス拡充に取り組めます。
- 子どもの急な体調不良にも対応できるよう、病児・病後児保育がより利用しやすい環境の整備に努めます。

方向性(3) 子どもの生きるための基礎的な力を育成する環境の整備

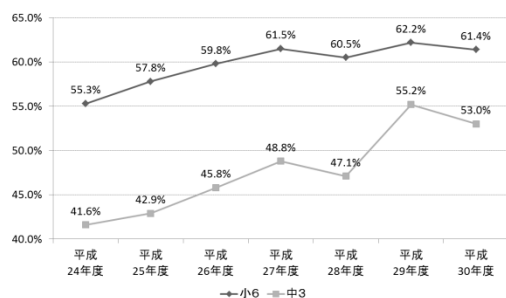
現状と課題

平成29・30年改訂の学習指導要領では、新しい時代を生きる子どもたちに必要な力として、「学んだこと人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性など」「実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能」「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力など」を三つの柱として整理しました。教育行政には、新しい学習指導要領で示されたこれからの教育課程の理念を踏まえて、三つの柱をバランスよく育んでいくことが求められています。

墨田区では、学校・家庭・地域の総合的な教育力の向上を通して子どもたちの学力向上を図るため、学校での授業改善の取組に加え、地域の教育力を活用し、自主的な学習の支援や家庭の教育力の向上に向けた施策を展開し、子どもたちの学びを支援しています。

最近では、教育環境を支える教員の多忙化が社会問題化しており、解消に向けた対策も必要になっています。

いつも目標に向けてコツコツ
勉強する児童・生徒の割合



< D・E層の児童・生徒の割合 >

	小学校第6学年				中学校第3学年			
	28年度	29年度	30年度	目標	28年度	29年度	30年度	目標
国語	29.7%	22.9%	25.4%	25%	31.5%	28.3%	36.3%	25%
社会	38.9%	33.5%	41.1%	30%	50.3%	48.7%	49.4%	35%
算数 数学	43.3%	39.1%	40.6%	25%	42.7%	41.8%	42.3%	30%
理科	42.3%	40.0%	43.8%	30%	57.5%	46.1%	62.8%	35%
英語					40.2%	32.4%	37.5%	30%

資料：「墨田区学習状況調査」（平成30年9月）

今後の方向性

- 「すみだ教育指針」に基づき、子どもたちが「挑戦する力」「つながる力」「役立つ力」を身につけることをめざし、地域の特色にあった魅力ある学校づくり、よりよい学校教育を推進するためのしくみづくりなどに取組むことで、一人ひとりの子どもに応じた教育を展開し、確かな学力と豊かな人間性を育んでいきます。
- 次代を担う子どもが国際的視野をもち、異文化を理解するとともにグローバルに交流の輪を広げられるような国際理解教育を推進します。また、地球環境や地球エネルギーをはじめとした環境問題に関心が持てるよう、環境学習に取り組んでいきます。
- 学校・家庭・地域の連携で子どもたちの学びを後押し、教員の授業力の向上とともに、家庭における学習習慣づくりを進めます。

基本目標③ 困難を抱えた子どもと親への支援体制を手厚くします

方向性(1) ひとり親家庭等への支援

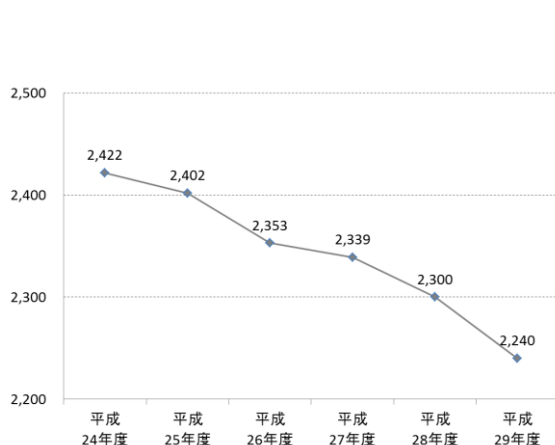
現状と課題

ひとり親家庭への手当の受給者数の推移によると、区内のひとり親家庭は減少傾向にあると推測されますが、母子・父子相談件数は以前より増加しており、ひとり親家庭が子育てと仕事を両立していく上で多くの困難に直面している状況にあります。

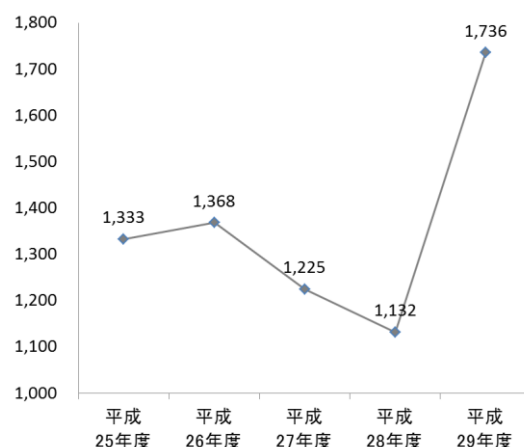
子育てには、保育、教育、医療等のさまざまな費用が必要です。その中で、ひとり親家庭が就業により一定の安定した収入を得て経済的に自立できるよう支援することや安心して子育てができるような相談体制の充実を図り、子育てへの経済的・心理的負担の軽減を図っていく必要があります。

また、ひとり親家庭の場合、親が子どもと関わる時間を確保することが難しく、子どもの悩みを親が十分に受け止められないことがあるという課題もあります。子どもの悩みを受け止め、子どもの成長を支援する環境を地域社会全体で整えていくことが求められています。

＜児童育成手当受給者数の推移＞



＜母子・父子相談件数の推移＞



資料：「墨田区の福祉・保健」

今後の方向性

- 各種手当や医療費の助成、その他の福祉サービスの充実のほか、就労支援等を通じて、経済的に自立した生活を送ることができるための支援を行います。
- 相談窓口において、一人ひとりの状況を丁寧に聞き取り、必要な情報提供を実施し、適切な支援環境につなぐことによって、ひとり親家庭の自立を支援します。

方向性(2) 障害のある子どもの発達と成長支援

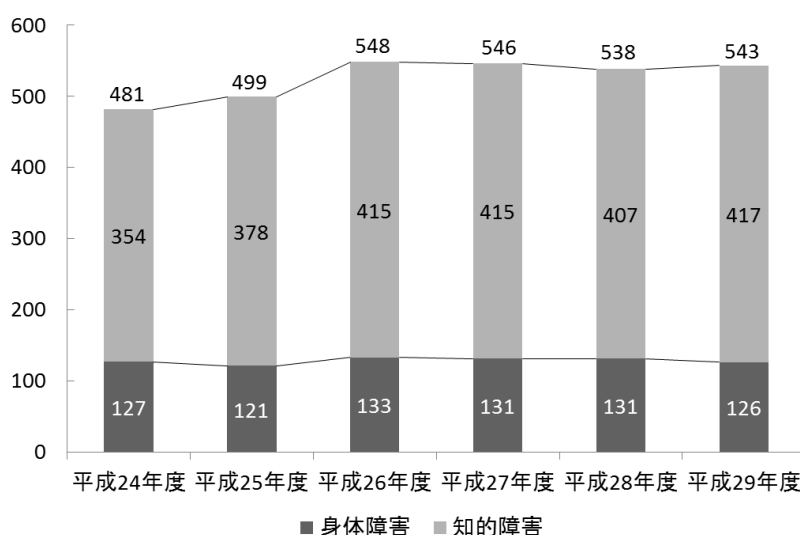
現状と課題

区では、幼稚園・保育園や学童クラブなどにおいて配慮が必要なお子さんを受け入れているほか、特別支援学級を設置するなどして、一人ひとりの状況に応じた支援を行っています。障害の有無に関わらず、すべての子どもたちがそれぞれの個性と能力を伸ばしていけるよう、地域社会の中で成長できる環境を整備していく必要があります。

障害のある子どもへの支援に当たっては、就学前の保育・教育体制の整備、療育に携わる施設の質の維持・向上が課題となっています。また、知的、身体、精神の障害に比べて早期発見が難しく、支援の取組が遅れている学習障害、注意欠陥・多動性障害、高機能自閉症等の発達障害のある子どもとその家庭への支援の充実が求められています。

特に発達障害は、一見してわかる障害ではない場合もあり、親子ともに認識のない場合や診断を受けてない場合も多く、学習の遅れや意欲の低下、対人恐怖症等を招き、不登校になることもあります。そのため、早期発見、早期対応が必要です。

＜18歳未満の障害児数（障害者手帳交付者数）の推移＞



資料：「墨田区の福祉・保健」

今後の方向性

- 発達障害を早期に発見し、適切な支援につなげるため、保護者が相談しやすい体制の整備、保育所、幼稚園、学校等の保育・教育施設や子育て支援総合センター、保健センター医療機関等の関係機関の連携体制の構築、発達障害児の保護者同士の交流支援など、発達障害児とその家庭への支援を充実・強化していきます。
- 児童発達支援センター「みつばち園」を中心に、新進の発達に遅れや障害のある子どもに質の高い療育を提供するとともに、区内の障害児を預かる施設を支援し、療育の質の確保と向上を図ります。

方向性(3) さまざまなサポートが必要な子どもとその家庭への支援

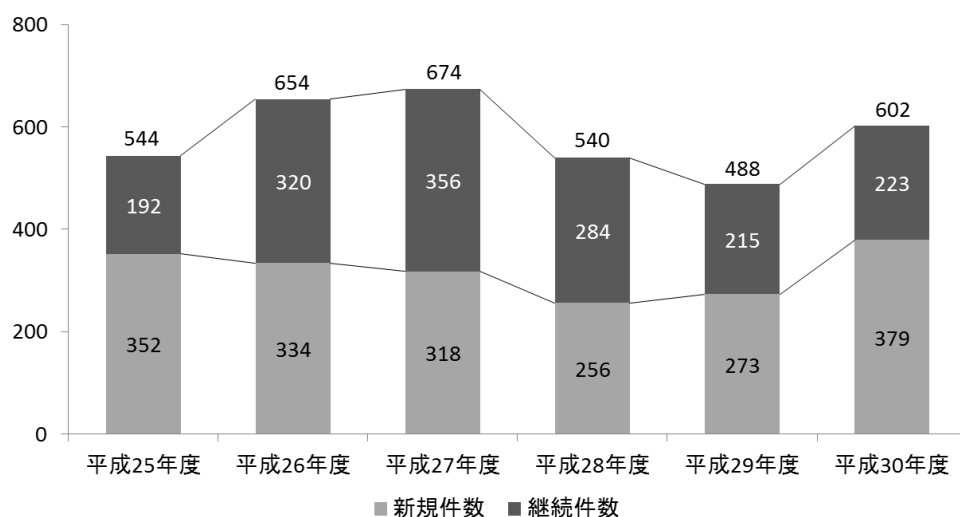
現状と課題

度重なる児童虐待事件を受け、平成12年に児童虐待の防止等に関する法律が制定されたことを踏まえ、本区は地域の関係機関のネットワークによる支援に取組み、虐待の予防、早期発見、適切な支援を行ってきました。

しかし、全国的にしつけと称した体罰やネグレクトなどの育児放棄による児童死亡事件は後を絶たず、体罰の禁止等が盛り込まれた改正児童虐待防止法が、令和2年4月に施行されることになりました。大切な子どもの命を守るため、より一層児童虐待防止の取組を強化していくことが求められています。

さらに、経済的に困窮している家庭、子どもの貧困、いじめ・不登校の問題、医療的なケアが必要な子ども、外国にルーツを持つ子ども、性自認に悩む子どもなど、社会環境の変化に伴い、これまで以上に幅広い支援に取り組んでいくことが求められています。

＜子育て支援総合センターで対応した児童虐待相談件数の推移＞



今後の方向性

- 児童館や地域の関係機関が連携・協働するためのネットワークである墨田区要保護児童対策地域協議会の機能を強化し、子育て支援総合センターを中心に、虐待をはじめ不適切な養育により被虐待に至る可能性のある児童を早期に発見し、事態の深刻化の防止を図るとともに、問題の解決に向けて取組む体制構築を迅速に行います。
- 改正児童虐待防止法の主旨を踏まえ、子どもの権利擁護に関して、監護及び教育に必要な範囲を超えた懲戒の禁止、体罰によらない子育て等を啓発、推進していきます。
- 墨田区いじめ防止対策推進条例に基づき、区、学校、地域住民、家庭、事業者その他の関係者が連携し、地域社会全体でいじめ問題の克服に取り組めます。
- 医療的ケアが必要な子どもを地域で支えていくための総合的な支援体制の構築に努めます。

基本目標④ 地域の子育て力と支えあいを強化します

方向性(1) 地域の子育て力の育成と子育て支援ネットワークの構築

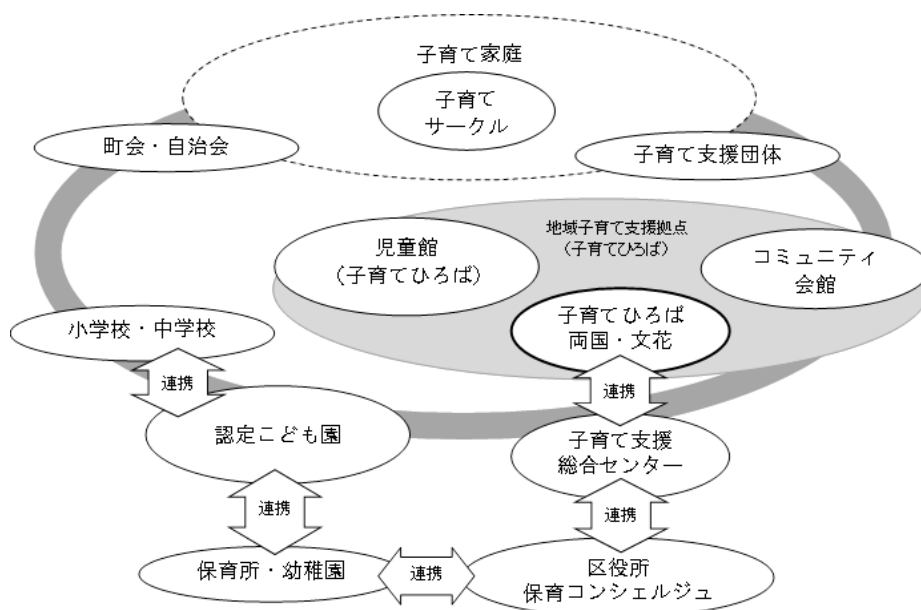
現状と課題

本区では、人と人とがつながり、さまざまな主体が各分野・各地域で、地域の課題を積極的に解決していくことができるよう、令和元年度に墨田区地域力育成・支援計画を策定しました。この計画では、「全員参加による課題解決社会」の実現に向けて、各種取組を推進していくこととしています。

兄弟姉妹の数が非常に少なくなっている現在、子どもたちが豊かな人間性、社会性をもった大人に成長していくためには、子育てへの地域社会のかかわりが必要ですが、担い手の不足が課題になっており、コーディネーターとなる人材の育成や必要な支援の「見える化」に取り組んでいく必要があります。

本区の特徴である“困った時はお互い様”という助け合いの精神や人情深い下町気質を子育て・子育てを支える活動につなげ、地域全体で子どもの育ちを継続的に見守り、支えていくしくみが求められています。

＜地域子育て支援ネットワークの検討イメージ図＞



今後の方向性

- 保育所・幼稚園等の教育・保育施設、児童館、学校、町会・自治会等が、相互の連携・協働により、乳幼児期の頃から子ども・子育て家庭が身近な地域とかかわり、つながりを深めることで、子育て家庭の孤立を防ぎます。
- 子育て経験のある方や子育て・子育ての活動にかかわりたいと思っている地域人材を、子育て支援サービス等を担う人材として育成するとともに、子育て家庭や教育・保育施設、児童館、学校等とつなぐしくみを整備し、区民の子育て・子育て支援活動への参画を促進します。
- 子育ての当事者である、親同士のつながりや支えあいを促進するための自主グループの育成に力を入れていきます。

方向性(2) 企業等の子育て力との協働

現状と課題

本区は江戸時代から続くものづくりのまちであり、昭和 54 年には全国に先駆けて中小企業振興基本条例を制定するなど、区内産業の振興に取り組んできました。厳しい社会経済状況の中で、非常に苦しい環境に置かれていましたが、最近では新しいものづくりを生み出す動きが見られるなど、すみだのものづくりは再び活気を取り戻しつつあります。

こうした中で、企業のノウハウや人材を生かした次世代育成支援への取組が期待されます。子育て・子育て支援、子どもを取り巻く地域の環境整備等への企業の参画・取組を促し、区や地域との連携・協働につなげていく必要があります。

今後の方向性

- 企業の子育てにかかわる地域貢献活動を促進し、連携・協働を推進します。特に子どもたちがすみだの産業について知り、体験できる機会づくり、子どもの職業観や将来墨田区で働くというイメージの育成につながる取組などを進めていきます。
- 子育て・子育て支援活動に積極的に取組む区内の中小企業や商店等の情報を、区報やホームページ等で紹介し、こうした取組の普及啓発につなげていきます。
- 一人ひとりの働き方を尊重する環境のある区内の中小企業を紹介し、育児と仕事の両立に悩む人と、人材不足に悩む企業のマッチングに取り組めます。



方向性(3) 子どもと親が安心して暮らせる環境の整備

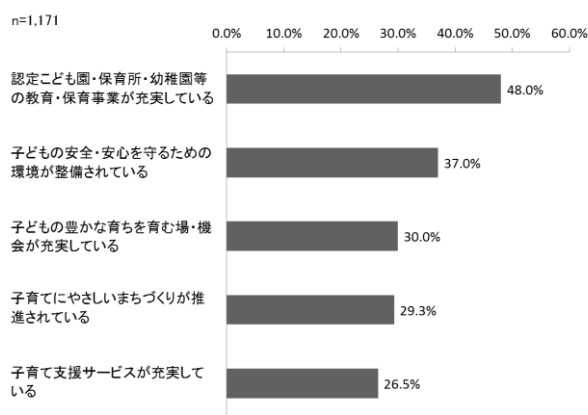
現状と課題

災害によるフェンス倒壊や交通事故など、子どもが巻き込まれる事故が発生し、子どもの安全をいかにして確保するかが社会的にも問題になっています。調査結果によると、本区が「子どもの安全・安心を守るための環境が整備されている」と評価している割合は、乳幼児の保護者と小学生の保護者のいずれも4割台となっています。

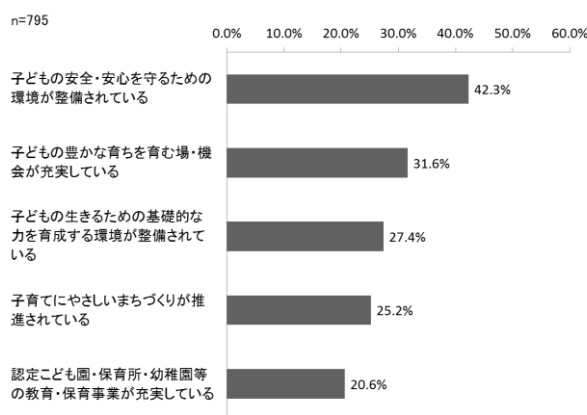
一方で、区が目指すべき環境として、子どもの安全・安心を守るための環境を整備することが今回調査においても上位にあげられており、事故や犯罪の未然防止、緊急時の対応体制の整備など、なお一層の対策を行っていく必要があります。

＜墨田区がめざす環境として重要だと思うこと（複数回答）＞

【乳幼児の保護者：上位5項目】



【小学生の保護者：上位5項目】



今後の方向性

- 子どもが巻き込まれる犯罪や非行の多くは、目が届きにくいところで引き起こされるケースが多いため、地域と連携したパトロールの実施、見守り体制の構築や、防犯設備の整備等により、子どもたちを犯罪から守ります。
- 地域と連携した通学区域における危険箇所の確認や、交通安全教室の実施により、子どもが交通事故に巻き込まれることを防ぎます。

基本目標⑤ ワーク・ライフ・バランスを踏まえた支援を実施します

方向性(1) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた環境づくりの推進

現状と課題

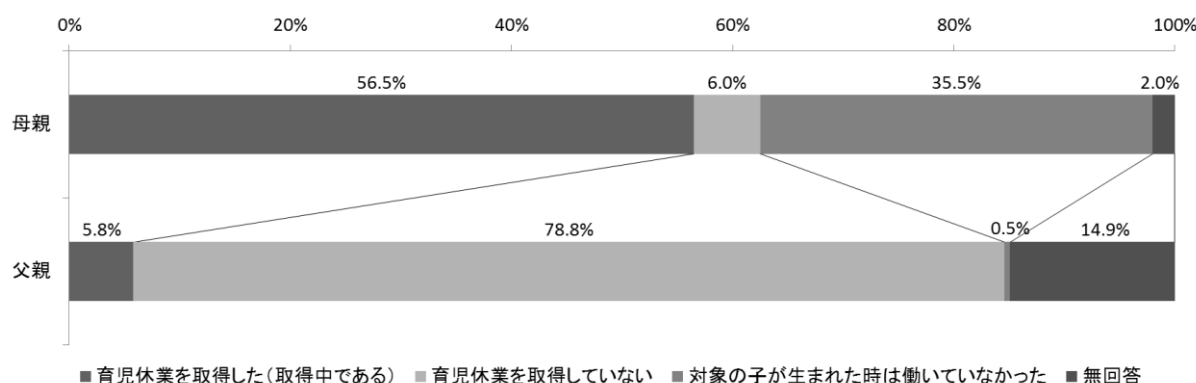
調査結果によると、育児休業の取得状況は、母親が 56.5%であるのに対して父親は 5.8%であり、父親の育休取得率は増加傾向にあるものの、とても低い割合です。また、父親の子育てへの参加についても、子どもが乳幼児であるときと比較して、小学生になると割合が少なくなっています。

子どもの健やかな成長を支えていくためには、家庭において親子がともに過ごす時間が大切であり、女性も男性もともに、仕事と生活の調和を図っていくことが重要です。

女性の就業が進む中で、依然として育児・介護の負担が女性に偏っている現状や男性の育児休業取得が進まない実態を鑑み、男性の育児参加を一層促していくには、働く人それぞれの事情に応じた柔軟な働き方を選択できる働き方改革の推進が重要です。

女性も男性も仕事と生活の調和を実現し、それぞれのライフステージでいきいきと活躍していくことが、子どもの豊かな育ちを育むことへとつながります。

＜乳幼児の保護者の育児休業の取得状況＞



資料：「墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査 調査結果報告書」（平成 31 年 3 月）

今後の方向性

- 雇用環境や労働条件の整備、各種制度を利用しやすい職場の風土づくりなど、ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業（事業所）の事例を紹介するなど、考え方や重要性などを浸透させるための啓発活動を推進します。
- 企業とかかわりが深い労働関係団体等との連携や、東京都の助成制度等のインセンティブを紹介することで、企業のワーク・ライフ・バランスへの取組を促進します。
- あらゆる機会を通じて、男女が共同して子育てへ参加することの促進に向けた意識啓発を行います。

方向性(2) 子育てを楽しめるまちづくりの推進

現状と課題

調査結果によると、小学生の保護者では子育てを楽しんでいると感じることの方が多いと答えた割合が、楽しいと感じることと心配することが同じくらいと答えた割合より約2割低くなっています。子どもが豊かな感性を持ち、伸び伸びと成長していくためには、子育てを親が楽しめる環境を整えていくことが重要です。また、子育てを楽しめる環境があることは、子どもを産み育てたいという希望を後押しすることもできます。

子どもとその家族が安心して生活するための基盤として、子育て家庭に配慮した公園・住宅・交通機関等の整備をより一層進め、こうした施設等の情報を積極的に発信することにより、子育てを楽しめるまちづくりを推進していく必要があります。

今後の方向性

- 妊娠している人やベビーカーを押している人、子ども連れの人等が安心して外出できるよう、交通環境のバリアフリー化を推進します。
- 乳幼児を連れて外出を楽しめるよう、授乳やおむつ替えスペース、利用しやすいトイレ環境の整備を促進します。
- 親世帯と子育て世帯が相互に支えあい、子育てを楽しむことができるよう、三世代の同居・近居を支援します。
- 子どもや保護者の参画の下、子どもたちがのびのびと遊ぶことのできる、魅力ある遊び場、公園の整備を促進します。



方向性(3) 子育て家庭の視点に立った情報の発信

現状と課題

子育て家庭の孤立を防ぎ、不安を解消するため、ホームページ、アプリ、ガイドブック等さまざまな方法で子育て支援情報の発信を行っています。

ですが、調査結果によると区が行っている各種子育て事業等に関する認知度は前回より低下しており、情報発信に当たっての更なる工夫が必要になっています。

「子育て支援に関する情報が分かりにくい」「必要な情報が、必要な時に、必要な人へ届いていないと感じる」といった意見が寄せられており、受け取り手の視点に立って、情報発信方法を常に改善し続けていくことが求められています。

＜子育て支援事業の認知度の推移＞

	平成28年度	平成30年度	増減
妊婦歯科健康診査	91.2%	85.6%	-5.6%
出産準備クラス・育児学級	75.3%	79.4%	4.1%
パパのための出産準備クラス	60.6%	71.3%	10.7%
ゆりかご・すみだ事業	55.3%	35.9%	-19.4%
こんにちは赤ちゃん事業	25.2%	23.0%	-2.2%
育児相談、子育て相談、子育て講座	86.4%	56.3%	-30.1%
赤ちゃん休けいスポット	83.1%	66.4%	-16.7%
保育コンシェルジュ	59.4%	40.6%	-18.8%
一時保育	83.8%	82.2%	-1.6%
すみだ子育て支援ネット「はぐ(Hug)」	55.5%	61.7%	6.2%
すみだいきいき子育てガイドブック	82.4%	73.0%	-9.4%
すみだ子育てアプリ	27.6%	43.1%	15.5%
すみだ安全・安心メール	73.2%	47.7%	-25.5%
児童館・コミュニティ会館	94.4%	93.1%	-1.3%
子育て支援総合センター	79.3%	56.5%	-22.8%

資料：「墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査 調査結果報告書」（平成31年3月）

今後の方向性

- 情報を必要とするすべての人が、子育てに関する情報を気軽に入手できるよう、引き続き多様な方法で情報発信に努めるとともに、必要な時に求める情報にアクセスできるよう、区民の意見を聞きながら随時発信方法の見直しを行っていきます。
- 発信する情報の内容を充実させ、多忙な子育て家庭にも分かりやすい情報の発信に取り組めます。